（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆくはし療育支援センター　すまいる			
○保護者評価実施期間	R 8年　1月　20日	～	R 8 年　2月　20日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	1	（回答者数）	1
○従業者評価実施期間	R 8 年　1月　20日	～	R 8 年　2月　20日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	1	（回答者数）	1
○訪問先施設評価実施期間	R 8 年　1月 20　日	～	R 8年　2月　20日	
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	1	（回答数）	1
○事業者向け自己評価表作成日	R 8 年　3月　19 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解をもっている。	利用者の送迎で来所した保護者の方と最近の家庭や学校での様子、他の療育施設での様子など情報共有をしている。保護者が気になることがあれば、その都度相談にのりながら必要な時にはアドバイスを行っている。その日の活動内容やねらいなど保護者にわかりやすいように連絡帳にてお知らせするなどして取り組みの様子を共有している。	保護者の方と直接話をする方が、子どもの様子が伝わりやすいため、支援中の様子を含め見ていただき面談をその都度行うようにしている。
2	個々の子どもに対してのアセスメントを適切に行い、子どもと保育者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している。	アセスメントシートを用いて保護者のニーズを聞くとともに苦手な事だけでなく好きな物、得意な事を聞き取り得意な事も伸ばしていけるよう、また自己肯定感が上がるように、個別支援計画に取り入れている。	利用している子ども達の通う保育園、幼稚園、小学校との情報共有や連携を密に行えるようにする。
3	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて個別支援計画を作成し、支援が行われている。 保護者、関係機関との連携を迅速に行い、問題解決できるようにしている。	集団での活動の際に、情緒が不安定な様子が見られる児に対して保護者と相談しながら個別活動を行っている。個別での様子を保護者にお伝えし情報共有を行っている。	個別療育の際に保護者も同席していただき、お子さんの関わり方や気持ちの汲み取り方などの方法を保護者とともに考え家庭でもできる対応を提案していけるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族等の参加出来る研修、家族同士で関わる機会など保護者向けの取り組みが少ない。	働いている保護者の方も多く家族同士で関わる機会が取れないのが現状。 また、家族同士の交流を望まない保護者の方もいる。	長期休み期間でのイベント等、気軽に保護者同士が交流できる機会を設ける。
2	保育園、幼稚園との連携は比較的あるが、就学移行の際の小学校との連携が少ない。	就学前の療育に関して保護者も一生懸命になっており、就学後無事に通学できるようになり安堵からなのか小学校生活に関しての相談が少ない。	小学生になる子どもの保護者の方から支援級と普通級についおての相談を受けることもあり今後は各小学校の支援級との連携を深め、就学移行の相談にのれるようにしていく。
3	長期休みにおける長時間支援の検討	少人数での長時間支援となる為、個々に合わせた活動が多くなるが、長時間だからこそできる活動の検討が必要と考えている。	長期休みのプログラムを立案し、その日の人数や利用予定の児の特性に合わせた集団を意識した活動が行えるように計画していく。